



優しい風の吹く街



宝塚市議会3月定例会が終わりました。議会後半の予算特別委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と職員の業務負担に配慮し、文書質疑形式となり、最終日のみ委員会室ではなく議場で総括質疑を行いました。その結果、一般会計・特別会計は全て可決されました。

4月はじめの現段階では、まだ新型コロナウイルス感染症の感染拡大は収まっておらず、引き続き感染拡大防止のとりくみをしっかり続けていきます。

活動報告 ～抜粋～

- | | | | |
|------|-------------------|--------|-------------------------------|
| 1/6 | 仕事始め式 | 1/19 | 宝塚市障害がい者スポーツ協会
オープン・ボッチャ大会 |
| 1/7 | 連合兵庫レセプション | 1/25 | 議会報告会 |
| 1/8 | 宝塚市新年互礼会 | 1/26 | 母と女性教職員の会兵庫県集会 |
| 1/11 | 体育協会新年互礼会 | 1/28 | 末成小学校「みんなの先生」授業 |
| 1/12 | 消防出初式 | 2/2,22 | インターンシップ合同研修会 |
| 1/13 | 成人式 | 2/16 | ミリオンベル@宝塚 例会 |
| 1/17 | 追悼のタベ | | |
| 1/18 | 阪神・淡路大震災25年シンポジウム | | |

2/6(木)

「議会モニター制度」視察



議会改革検討委員会分科会の藤岡議員、岩佐議員、北野の3名で朝来市議会に視察に行ってきました。瀧本議長はじめ議会運営委員長、広報委員長から詳しい説明を受け、質疑応答も行いました。宝塚市議会でのモニター制度実現への第一歩です。



雪の日降る中、大変有意義な視察になりました

2/7 第9回意見交換会

地域コミュニティや福祉施設の方々と防災のとりくみをテーマに意見交換を行った。

- ① 講演：「宝塚市の災害と被害想定について」
宝塚市危機管理監・山中毅さん
- ② 全議員とグループ討議

地域からは防災キャンプや防災訓練の実践報告とともに、避難所の鍵の管理、災害時要援護者へのサポート、福祉避難所などの課題が出された。



2/10 議会講演会「アートは希望」

4月にオープン予定の市立文化芸術センターについての講演会が市議会議場で行われた。

- 基調講演：「アートは希望～文化芸術センターから生まれる未来～」加藤義夫館長
- 対談：加藤館長と高満津子総括責任者
→ 芸術は新しい価値観の創造。生きるための精神活動。地元のアーティストや大学との連携、年会費制による「みんなで創るアートセンター」としたい。

2/14 議場コンサート 本会議 (市長施政方針)

2/14 総合計画特別委員会

2/27,28 代表質問

3/5 文教生活常任委員会

＜可決した主な議案＞

- 2019年度市立病院事業会計補正予算
- 2020年度市立病院事業会計予算
- 障がい者等の表記を「障^{がい}碍」へ
- 障がい者の自立した生活の実現に向けての請願（趣旨採択）
- 放課後児童クラブにおける待機児童の受け入れ先の拡充についての陳情（採択）
- 奨学金条例を廃止する条例の制定（可決）

私は奨学金条例の廃止について反対討論を行った。4月から始まる国の制度は成績優秀者優遇であり、世帯収入の限度も変わるので、これまで宝塚で奨学金を受けてきた学生をすべてカバーしきれない。経過も見ず、また残っている「奨学基金」の用途も明確にされないこの時期の廃止は時期尚早である。

3/6 産業建設常任委員会

NPO 法人ともいきる宝塚から出された請願6号「外国人労働者の労働環境・生活支援・教育支援の充実を求める請願」の審査（趣旨採択）

これは宝塚市内で働くベトナム人労働者の実態から出された問題提起である。私は紹介議員の一人として審査に臨み、委員からの質疑に実態報告も行った。私たちは人権を守り、外国人と共生できるまちづくりを推進し、弱い立場の者が抱える問題に取り組むという根本原則にたち、この困難な課題に企業も行政も議会も、そして私たち地域住民も一つになって克服していく道筋をつけていくことが、いま求められていると考えている。



問 世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数で日本は153カ国中121位、主要7カ国では最下位という結果である。また世界のSDGs（持続可能な開発目標）達成度ランキングでも、ジェンダー平等が足かせとなっている現状がある。さらに日本社会にはまだまだ根深い差別に苦しむ人もいる。本市においてすべての施策の根底に、人権尊重、ジェンダー平等を位置づけるために、どのような施策を推進していこうとしているのか。

答 すべての施策に人権尊重、ジェンダー平等の視点を持って取り組んでいくことを第6次総合計画で考えている。すべての職員がジェンダー・ギャップに気づくことが必要と考えており、具体的には、女性職員の登用及びさまざまな分野への配置を推進するとともに、新任研修時の人権に関する研修に参加及び実施してもらうことにより、職員一人ひとりの人権感覚をしっかりと磨き、すべての施策に人権尊重、ジェンダー平等の視点を持って取り組んでいきたい。

▽ ▽ ▽

問 新型コロナウイルス感染防止による休校が続くが、学校再開の道筋についての考えは。

答 これまで感染防止を第一義として休校してきたが、いつまでもこの状況ではいけない。子どもの学びを保障し居場所を確保しなければならないと認識している。情報を取り入れ再開の基準の準備に向けて取り組んでいきたい。

▽ ▽ ▽

問 消費者生活相談事業について、多様な消費者問題に対応する重要な事業であるので、その機能を一層充実させてほしい。

そのために相談員の人材確保と資質向上の具体的な内容は。

答 消費者生活相談はインターネット社会の進展に合わせるように、高度化、複雑化しており、非常に難解な相談が増え、1件の相談や斡旋にかかる時間と労力が増している。そのため相談員の資質向上は必須である。そこで本市の相談員は、全員、年に1度は国民生活センター研修所での宿泊研修に派遣し、高度な専門知識の習得に努めさせるとともに、県での専門研究会や弁護士会の研修会などに参加し、日々生じているタイムリーな消費者問題解決に即した知識と技術の習得に努めている。

▽ ▽ ▽

問 子ども支援サポーターは宝塚市の教育現場で必要不可欠となっている。その配置実績と、充足率は。また、今後の人材確保と資質向上の具体的な内容は。

答 心理相談員を全小学校に61人、8中学校に8人。別室登校指導員を11中学校、コーチングサポーターは7中学校に配置した。充足率は心理相談員が54.3%、コーチングサポーターが52.2%で昨年度より下回る結果。年々個別の心理支援を必要とする子どもが増えていること、またサポーターの人材が不足していることが挙げられる。雇用の不安定さが理由である。サポーターはそれぞれ定期的に研修会を行い各自の実践発表や臨床心理士からのアドバイスを受けそれらを通して資質向上を図っている。

- 2020年度宝塚市一般会計予算（可決）
- 新型コロナウイルス感染症対策にかかる財源確保に向け、不急な事業の見直しを求める決議について（可決）

1/9 兵庫県教職員組合新春旗開き (神戸ラッセホール)

鏡開きに参加した。



1/22 トライスポーツ倶楽部廃線跡視察



2/5 郷土史研究会 小林一三記念館視察

議員有志で地域研修を行っている。

2/24 市民ネット宝塚 第43回「駅前議会」

90年以上の歴史がある宝塚ホテルが、閉館移転となるので最後の「駅前議会」を開催したところ、多くの参加者があった。消毒液とマスクを用意して感染防止につとめながらであったが、議会報告やテーブルトークで熱い議論が交わされた。



風のこころ

2020年度宝塚市当初予算は私立保育所定員拡充や助産師訪問による産後ケア事業など生活支援に重点がおかれた。GIGAスクール構想に沿った教育環境整備も進める。同時に新型コロナウイルス感染症による社会不安が広がっている中、健康不安や経済的困窮に対処するための予算措置も必要となってくる。